

土 留 工

土留工の選定にあたっては、各工法の経済比較及び周辺環境等を十分考慮して、安全かつ経済的でまた、工期のかからない工法を採用することが必要である。

なお、土留工の遵守すべき事項は「建設工事公衆災害防止対策要綱」に定められている。

1. 土留め工の種類

工 法	掘 削 深	摘 要	図 番
素 掘 り	$H \leq 1.5\text{m}$	良質な地盤で、地下水位が低く水密性を必要としない現場	502
アルミ・軽量鋼 矢板建込み工	$1.5\text{m} < H \leq 3.8\text{m}$	良質な地盤で、地下水位が低く水密性を必要としない現場 (根入れ20cmとして算定)	
建込み簡易土留工	$1.5\text{m} < H \leq 6.0\text{m}$	良質な地盤で、地下水位が低く水密性を必要としない現場 根入れがないため地下水位の高い場合はボイリング及びヒーピングの発生が考えられるので補助工法の検討を要する。	
鋼 矢 板 土 留 工			

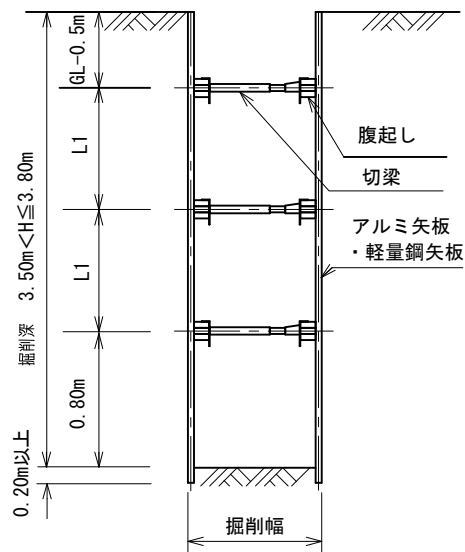
豊 橋 市 上 下 水 道 局

土留工の設計基準

年 月 日 | 図 番 | 501-1

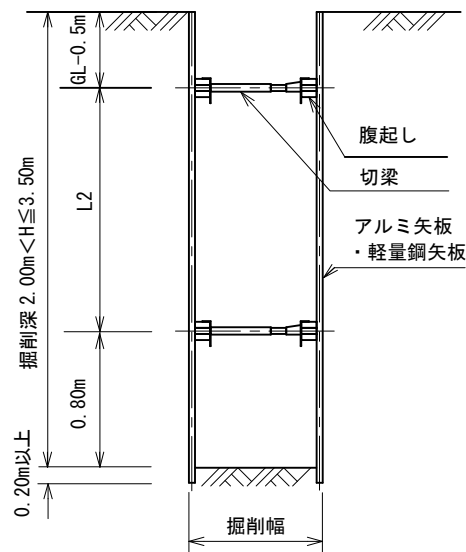
備 考 | B

3.50m<H≦3.80m

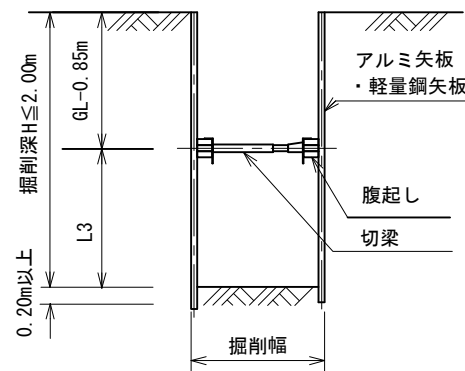


1 段目支保以深を均等配置とする。

2.00m<H≦3.50m



H≦2.00m



(100m, 1段当たり)

腹起し長さ4m	腹起し材厚	50.0本
	切梁材	50.0本

掘削深	支保段数	一段目	二段目	三段目	腹起し	切梁
H≦2.0m	1段	GL-0.85m	—	—	断面係数 120cm ³	水圧式又は ネジ式
2.0<H≦3.5m	2段	GL-0.50m	掘削底面から0.80m	—		
3.5<H≦3.8m	3段	GL-0.50m	1段目、3段目の中間	掘削底面から0.80m		

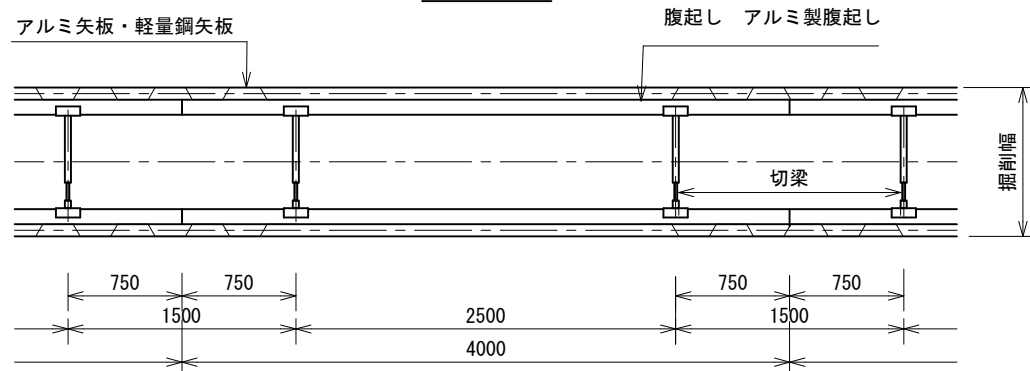
軽量鋼矢板標準図 (参考)



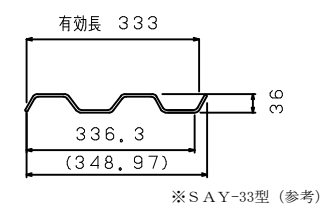
規格性能 (軽量鋼矢板)

矢板1枚につき	壁幅1mにつき
14.2Kg/m	42.6Kg/m ²

平面図



アルミ矢板標準図 (参考)



規格性能 (アルミ矢板)

矢板1枚につき	壁幅1mにつき
5.0Kg/m	15.0Kg/m ²

豊橋市上下水道局

土留アルミ矢板鋼・土留軽量鋼矢板工

年 月 日 図 番 502

備考 A